

輝く恵那人

三郷町佐々良木

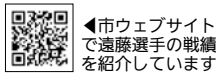
えんどう に ち か
遠藤 二千翔さん（25歳）

恵那で生まれ育ち、兄や弟とともにクリスタルパーク恵那スケート場で力を付ける。現在、市体育連盟に所属しながら、一戸誠太郎選手（ANA所属）が主宰するチームに参加してトレーニングを重ねている。

※これまでの戦績などは、市ウェブサイト参照ください



▲日本代表のジャージに身を包む



▲市ウェブサイト
で遠藤選手の戦績
を紹介しています



▲代表入りを決めた全日本
スピードスケート選手権で
の滑り

特別号

前回紹介時から飛躍
を続け、世界に挑戦
する方を紹介します



▲本紙平成29年5月号
では、国体優勝時の思
いを紹介しています

初のワールドカップ出場

スケートで夢を追い続ける

高木美帆さんや森重航さんらの名が連なるW杯スピードスケート日本代表選手団。遠藤二千翔さんは、そんな選手らと共に、1月末にカナダで行われるW杯に臨む。出場権を賭けた大会は、昨年12月の全日本選手権。最終日の1万5000メートルで3位となり、代表に選出された。名だたる選手らの中に自分の名前があることを「ここまで長かった分、実感がなかった」と振り返る。3歳でスケートを始め、小学生から競技に参戦。高校生で国体を二連覇し、スケート強豪の大学で切磋琢磨した。卒業後は北海道を拠点に、実力者がそろったチームで練習を続けている。週1日のオフも、動画を見るなどしてスケートのことを考える。「オフは競技から離れる選手もいるが、自分は違うみたい」と笑う。スケートは、ずっと遠藤さんの日常と共にある。走り続けられる原動力は何か。国体で優勝した時、スケートで勝負できるかもしれないと思うと同

時に「恵那の子たちに、ここからでも世界に行けることを見せたいと思った」と話す。自分が成績を残すことで道を切り開きたいという思いは、今も変わらない。久しぶりに恵那に戻った日、遠藤さんは、若い選手らが練習に励む恵那スケート場で汗を流した。一緒に滑ったのは、高校の後輩、大窪優太さん。「二千翔先輩は、みんなの憧れ。W杯も応援しています」と言う。遠藤さんは、そんな気持ちも受け止め、世界に目を向ける。周囲から代表選出の祝福を受け初出場を実感したとき、心に浮かんだのは、支えてくれた人たちの顔だった。特に家族はいつも自分の後押しをしてくれ、兄や弟とは一緒に練習に打ち込んだ。家族の思いと支えがなかったら、ここまで来れなかったと感謝する。多く人の思いを力に変え、W杯で全力を尽くす。そしてその先には、小さい頃からの夢、オリンピックへの挑戦が待っている。

※1月23日時点の情報です



その他の話題もウェブサイトに満載

News & Topics まちのわだい



大井ダム完成100周年を記念し、「大井ダム完成100周年記念WEEK」が開催されました。ランタンの打ち上げや記念式典、大井ダムの観光放流などが行われ、来場した約8,000人は、大井ダムの100年の歴史を感じながら恵那峡の景色や各種イベントを楽しみました。

12/12-15
大井ダム完成100周年を祝う



▲100基のランタンが夜空を舞う



▲記念式典で感謝状を贈呈



▲大井第二小学校の児童が学習発表



▲湖面に浮かぶキャンドルフロート



心配停止になった男性に適切な処置をして命を救ったとして、市消防本部は岩村町在住の立花信也さん、加藤誠二さん、加藤美佳さんに感謝状を贈呈しました。立花さんは119番通報、加藤夫妻は心肺蘇生を実施。男性は病院に搬送され、現在は社会復帰しています。

12/8
岩村町で人命救助
協力者に感謝状を贈呈



2024年JAFモータースポーツ表彰を受賞したラードライバーの三枝聖弥選手（長島町出身）が市長報告を行いました。三枝選手は、全日本ラリー選手権JN-2クラスで、年間順位第1位を獲得。「優勝という結果で恩返しできてよかった」と喜びました。

12/17
三枝選手が2年連続JAFモ
ータースポーツ表彰を受賞



恵那南高等学校の生徒が、「しみチョコ勝ち栗」を製作し、近隣の高等学校へ贈呈しました。本年は、パッケージに鳥居と幸運の象徴である白い蛇をデザイン。同校3年生のペレータサマタさんは「届けることの大切さに気づき、物事を広く考える力が付いた」と話しました。

12/24
受験生応援グッズ
しみチョコ勝ち栗の贈呈



山岡歌舞伎保存会が、令和6年度の県伝統文化継承者として表彰され、市長報告を行いました。この表彰は、伝統芸能の継承や振興に貢献している個人や団体の功績を称え、県が毎年行っているもの。同保存会の29年の継続的な活動が評価され、受賞となりました。

12/19
山岡歌舞伎保存会が
県伝統文化継承者表彰を受賞